《フィリピン》アロヨ政権(第２期)閣僚・大統領府高官プロフィール(下)

《閣僚》

■運輸通信相

Secretary of Transportation and Communication

レアンドロ・メンドーサ

Leandro R. Mendoza

2001年１月に「ピープルズパワー２(第２次エドサ革命)」でエストラダ政権が崩壊し、アロヨ政権が発足した直後に国家警察(ＰＮＰ)長官に抜擢された。その後、パンタレオン・アルバレス(Pantaleon Alvarez)前運輸通信相がニノイ・アキノ国際空港(ＮＡＩＡ)ターミナル３の建設・運営契約を巡る汚職疑惑で辞職した後の02年７月に、その後任(現職)として入閣した。警察官僚出身であるだけに、交通機関のストライキ阻止や治安機関と連携したテロ対策には厳しい対応を示している。04年７月に発足した第２期アロヨ政権で留任。

※国立フィリピン大学(ＵＰ)土木工学科を中退して士官学校に入学し、同校を第３位の成績で卒業したという異色の教育歴を持つ。旧・フィリピン警察軍(ＰＣ：Philippines Constabulary)に入隊(少尉に任官)後、全国各州の警察司令官などを歴任。新制・フィリピン国家警察(ＰＮＰ)では、情報局長、首都圏警察本部長などの要職を務め、01年１月の第２次エドサ革命当時はＰＮＰ内で「ナンバー３」の国際犯罪センター所長だった。エストラダ前大統領の信任が厚かったパンフィロ・ラクソン(Panfilo Lacson)ＰＮＰ長官(当時：現上院議員)が辞任したのを受けて、アロヨ新大統領によって長官代行に任命されたのは、同(メンドーサ)氏が警察幹部としてはいち早く前大統領に対する支持を取り下げたという経緯があるからだ(同３月に長官に昇格)。そのため、アロヨ政権でのＰＮＰ長官就任は「論功行賞」的な色合いが濃い人事だった。同長官在任中は警察官の給与を他の公務員並みに引き上げるプログラムを推進するなど警察官の福利厚生に尽力した。

▼ データ

【現職】運輸通信省長官

【年齢】59歳(1946年３月17日生まれ)

【生地】(カラバルソン地方)バタンガス州サンフアン

【学歴】国立フィリピン大学(ＵＰ)工学部土木工学科中退、1969：フィリピン陸軍士官学校(ＰＭＡ)卒(理学士)、フィリピン国軍参謀学校(ＡＦＰＣＧＳＣ：フォート・ボニファシオ)卒(首席)、国立フィリピン大学(ＵＰ：セブ)から行政管理学修士号取得

【経歴】1970：フィリピン警察軍(ＰＣ)少尉に任官、首都圏司令部〔Metrocom〕第３パトロール隊長、72：Metrocom公安部、74：同捜査情報班副班長、75：同捜査班長、79：Metrocom南部地区副司令官、80：セブ州警察司令官、84：Metrocom東部方面司令官、85：リサール州警察司令官、86：ブラカン州警察司令官、89：パンガシナン州警察司令官、90：第４警察管区司令部参謀長、91：［１月］(フィリピン国家警察〔ＰＮＰ〕発足)、［２月］マナ・デオロ特別部隊隊長、ムスリム・ミンダナオ自治地域(ＡＲＭＭ)警察本部長、92：ＰＮＰ情報副局長、93：同局長、94：ＰＮＰ第4管区局長、95：首都圏(ＮＣＲ)警察本部長、95：ＰＮＰ長官官房長、97：ＰＮＰ副長官(行政管理)、99：フィリピン国際犯罪センター所長、2001：［１月21日］(アロヨ政権成立)ＰＮＰ長官代行、［３月16日］ＰＮＰ長官(警察総監 Director Generalに昇進)、02：［７月３日］運輸通信相

【歴任】ＰＭＡ同窓会会長、フィリピン警察署長協会(ＡＣＰＰ)理事長

【家族】ソレダッド(Soledad Latore)夫人(実業家)との間に３男３女

【横顔】愛称はラリー(Larry)。

＊2001年のＰＮＰ長官就任に前後して、犯罪防止団体などから同氏には殺人事件容疑者の逃亡を幇助した疑惑があるとの批判が出た。こうした批判に対して、当時のリナ内相が同氏の経歴についての調査報告をアロヨ大統領に提出し「問題はない」との結論を出したため、同氏の長官就任が確定した。また、カトリック教会、特にイエズス会からの強力な支援もあった。

＊ＰＮＰ情報局長を務めた経歴からも、公安情報関連では第一人者と目された時期があったが、それだけに様々な地下の情報源に「ネットワーク」を構築していたようだ。

■公共事業道路相

Secretary of Public Works and Highways

ヘルモヘネス・エブダネ

Hermogenes E. Ebdane, Jr.

第１期アロヨ政権下の2002年７月に第13代フィリピン国家警察(ＰＮＰ)長官に就任。第２期政権発足後の04年８月に国家安全保障顧問(兼国家安全保障会議事務局長)として政権入り。05年２月に(インフラ・プロジェクト関連の企業からリベートを受け取っていた疑惑で更迭された)フロランテ・ソリケス(Florante Soriquez)氏の後任として現職に「横滑り」した。元ＰＮＰ長官からの入閣という点ではメンドーサ運輸通信相の経歴と似ている。ただ、陸軍士官学校(ＰＭＡ)卒ではあるが、別に土木工学の学位も取得しており、現職に関してまったくの「素人」というわけではない。ＰＮＰ長官時代からアロヨ大統領の信頼は厚い。

※旧・フィリピン警察軍(ＰＣ)に少尉として任官して以来、34年間を法執行、諜報、公安分野の前線で勤務してきた。ＰＮＰ副長官(行政管理)から順当にＰＮＰ長官に昇格。04年８月から務めた国家安全保障顧問としては、国軍、警察、シビリアンの情報機関や対テロ機関の間での業務調整・連携に尽力した。

▼データ

【現職】公共事業道路省長官

【年齢】56歳(1948年12月30日生まれ)

【生地】(中部ルソン地方)サンバレス州カンデラリア

【学歴】1970：フィリピン陸軍士官学校(ＰＭＡ)卒(理学士)、理学士号(土木工学)取得、修士号(犯罪学)取得、博士号(平和・安全保障管理)取得

【経歴】フィリピン警察軍(ＰＣ)ヌエバ・エシハ州警察司令官、大統領警護大隊長、ＰＣ特殊任務部隊長、フィリピン国家警察(ＰＮＰ)首都圏(ＮＣＲ)警察西部地区長、NCR警察本部長、国家誘拐対策本部(ＮＡＫＴＡＦ)本部長、ＰＮＰ要員・理論開発局長、ＰＮＰ副長官(行政管理)、2002：［７月］第13代ＰＮＰ長官、04：［８月］(第２期アロヨ政権)国家安全保障顧問(国家安全保障会議事務局長)、国家テロ対策調整官(テロ対策委員会副

委員長)、05：［２月14日］公共事業道路相
【家族】アルマ(Alma Cabanayan)夫人との間に３子
【横顔】ＰＮＰ長官時代の業績に一大汚点となったのは、03年７月に東南アジアの広域テロ組織「ジュマー・イスラミア(ＪＩ)」の幹部で爆発物専門家のファトゥル・ロフマン・アルゴジ受刑者がＰＮＰ本庁舎の拘留施設から脱走した事件だろう(同受刑者はのちに不可解な状況下で治安部隊によって射殺された)。

■環境天然資源相
Secretary of Environment and Natural Resources
マイケル・デフェンソール
Michael T. Defensor

アロヨ現政権ではドゥラノ観光相に次いで若い新世代政治家の代表格(36歳)。第２期アロヨ政権発足に伴い04年８月に大統領住宅問題顧問から現職に任命された。今年(2005年)９月28日にマニラで開催された「第４回ＡＳＥＡＮ＋３(日中韓)環境大臣会合」では議長を務め、参加国間の環境協力(環境教育フォーラムの開催や気候変動政策対話の実施など)の取りまとめに手腕を発揮した。国内政治では、04年の大統領選挙で不正行為があったとして大統領の退陣を求める野党陣営に対して「(大統領が不正に関与した)証拠を示すことが出来なければ野党議員こそ辞職すべきだ」と反論するなど、大統領擁護の先頭に立っている。「アロヨ・チルドレン」ともいうべき大統領の腹心のひとり。
※フィリピン全国学生連合(ＮＵＳＰ)会長を務めた活動家で早くから政治家を志した。1992年に最年少(22歳)でケソン市議会議員に当選、95年にはやはり最年少(25歳)で下院議員に当選(２期)。98年に誕生したエストラダ政権下では少数党(野党)次席院内総務を務めた。2001年のアロヨ政権誕生で大統領住宅問題顧問(住宅都市開発調整評議会〔ＨＵＤＣＣ〕議長兼任)に抜擢。
▼データ
【現職】環境天然資源省長官
【年齢】36歳(1969年６月30日生まれ)
【生地】マニラ
【学歴】1985：(米オハイオ州)マイルス・マッキンレー高校卒、91：国立フィリピン大学(ＵＰ)卒(文学士：歴史専攻)、99：同大学で修士号(行政管理学)取得
【経歴】1992：ケソン市議会議員、95：下院議員(ケソン市３区)、98：下院議員に再選(２期目)、野党次席院内総務、2001：(第１期アロヨ政権)大統領住宅問題顧問(住宅都市開発調整評議会議長)、04：大統領選挙対策本部スポークスマン、(第２期アロヨ政権)［８月18日］環境天然資源相
【歴任】フィリピン全国学生連合(ＮＵＳＰ)会長、全国青年議員運動(ＮＭＹＬ)議長
【趣味】鉄馬「ハーレーダビッドソン」に乗る
【家族】ジュリー(Julie Rose Tactaca)夫人(実業家)
【横顔】父のマティアス(Matias Defensor)氏は現下院議員(ケソン市３区)、姉妹らも前下院議員や議会職員、叔母のミリアム・サンチャゴ(Miriam Defensor-Santiago)氏は上院議員(元農地改革相)という政治一族。
＊アジア問題専門誌「アジア・ウィーク」(1999年11月５日号)でフィリピン政治の腐敗体質と戦う青年政治家として「新ミレニアムを導くアジアの政治指導者20人」のひとりに選出された。また、2002年にはマニラ首都圏のラジオ記者機構から「最優秀閣僚」賞を授与されている。

■エネルギー相 Secretary of Energy
ラファエル・ロティリャ
Raphael P.M. Lotilla

2004年１月から国営電力公社(ＮＰＣ)など電力部門の民営化や構造改革を推進する電力部門資産負債管理公社(ＰＳＡＬＭ)の総裁・最高経営責任者(ＣＥＯ)の任にあったが、05年１月の一部経済閣僚の改造人事で現職に任命された(第１期アロヨ政権の01年６月以来、４年間在職した前任者のビンセント・ペレス〔Vicente Perez〕氏は民間への転出を要望したとされるが、業務に対する官民双方からの抵抗やロビー活動への対処に疲れたとの観測も出た)。国内で入手可能かつ持続可能なエネルギー確保というアロヨ大統領の指示を遂行する一方で、エネルギー部門での投資促進に尽力している。
※国立フィリピン大学で教鞭(教授)をとった法学者。90年代半ばに国家経済開発庁(ＮＥＤＡ)副長官に就任して以来、行政府の立場から「電力産業改革法(2001)」などエネルギー関連の法案策定に貢献したこともあり、04年にＰＳＡＬＭのトップに任命された。
▼データ
【現職】エネルギー省長官
【生地】(西部ビサヤ地方)アンティケ州シバロム
【学歴】1980：国立フィリピン大学(ＵＰ)卒(文学士：心理学・歴史学)84：同大学で法学士号取得、88：(米)ミシガン大学法学部で法学修士号取得、フィリピン法曹資格取得
【経歴】1985：ＵＰ法学部助教授、89：ＵＰ法律センター・国際法学研究所所長(－96)、91：ＵＰ副学長(対外業務)、95：ＵＰ法学部教授、上院外務委員会、エネルギー委員会各法律顧問、立法・行政開発諮問評議会調整委員、96：国家経済開発庁(ＮＥＤＡ)副長官(省次官待遇)、のち電力部門資産負債管理公社(ＰＳＡＬＭ)最高執行責任者(ＣＯＯ)、2004：［１月］ＰＳＡＬＭ総裁・最高経営責任者(ＣＥＯ)、05：［１月26日］(第２期アロヨ政権)エネルギー相に任命、［３月21日］正式就任
【歴任】1983：学生紙「フィリピン・カレッジアン」編集局長(－84)
【横顔】今年７月に閣僚級高官10人(通称「ハヤット10」)が大統領の退陣を求める声明を出して「集団辞職」した際には、同(ロティリャ)氏も一旦辞職を示唆し、現政権に対する複雑な心境をのぞかせた。

■科学技術相
Secretary of Science and Technology
エストレリャ・アラバストロ
Estrella F. Alabastro

現在でも国立フィリピン大学(ＵＰ)の教授(非常勤)を務める食品科学・技術の専門家。科学技術省次官(研究開発)を経て、2001年の第１期アロヨ政権発足時から４年半にわたって現職にある。着実に実務を遂行するテクノクラート閣僚でアロヨ大統領の信頼も厚い。
※米ライス大学で化学工学の博士号取得。帰国後にＵＰで食品科学・栄養学の教鞭を執る。科学技術行政に転じ、95年から６年間科学技術省次官(研究開発)を務めた。
▼データ
【現職】科学技術省長官
【年齢】64歳(1941年２月19日生まれ)
【学歴】1961：国立フィリピン大学(ＵＰ)卒(理学士：化学工学、優等)、65：(米ヒューストン)ライス大学で化学工学修士号取得、67：同大学で化学工学博士号取得
【経歴】1973：ＵＰ食品科学・栄養学科長(－77)、81：ＵＰ研究出版事務局長、84：ＵＰ家政学部長(－90)、ＵＰ家政学部・技術管理センター非常勤教授(－現在)、91：フィリピン工業エネルギー研究開発評議会事務局長(－95)、97：フィリピン高等科学技術研究開発評議会議長代理(－98)、95：科学技術省次

官(研究開発)、2001：［３月12日］(第１期アロヨ政権)科学技術相
【歴任】フィリピン食品取扱技術者協会会長、フィリピン栄養学協会副会長、東南アジア諸国連合(ＡＳＥＡＮ)食品科学技術研究所連合副会長
【家族】夫君はエドガルド(Edgardo G. Alabastro)氏(Technotrix Phils社エクゼキュティブ・ディレクター)
【横顔】常勤のUP教授時代から内外の食品科学・栄養学関連学会・会合やセミナーに数多く出席し、同分野での論文の執筆も多い。

■観光相　Secretary of Tourism
ジョセフ・デュラノ
Joseph H. Durano

アロヨ現政権の最年少閣僚(35歳)。1998年から下院議員を２期務めたのち、第２期アロヨ政権発足時に観光相に抜擢された。日本人観光客に人気が高いセブ島の出身で、早稲田大学に短期間留学するほどの知日派でもある。国内での日本関連の催しにも度々参加している。今年６月には日本人観光客誘致を主な目的にしたフィリピン政府使節団を率いて来日し、観光省は日本でのマーケティングに最大の予算を計上し、通年にわたるキャンペーンを展開していることなどをアピールした。９月にも「世界旅行博2005」や愛知万博視察のために来日している。
※学業を修了し法曹資格を取得すると同時に、最年少下院議員のひとりとして中央政界にデビューし、下院多数党(与党)次席院内総務などの要職に就いた。アロヨ政権が成立した直後の2001年５月の中間選挙で再選され、下院の公共秩序・治安問題委員会委員長、公共事業・ハイウェイ委員会副委員長に就任した。この間、大物政商として知られるエドワルド・コファンコ氏が創設した民族主義者国民連合(ＮＰＣ)の書記長も務めている。
▼データ
【現職】観光省長官
【年齢】35歳(1970年４月３日生まれ)
【生地】(中部ビサヤ地方)セブ州セブ市
【学歴】1985：(米カリフォルニア州サンタクララ)セント・ローレンス・アカデミー(高校)卒、92：(同州)レッドランズ大学卒(文学士：アジア研究)、93：早稲田大学留学(日本研究)、97：アテネオ・デマニラ大学卒(法学士)、98：フィリピン法曹資格取得
【経歴】1998：下院議員に初当選(セブ５区)、2001：下院議員に再選、2004：［８月18日］(第二期アロヨ政権)観光相
【活動】アテネオ・ロー・スクール奨学資金財団創設者・理事長
【家族】カルメン(Carmen Luzuriaga)夫人(実業家)
【横顔】家族や知人の間では「エース(Ace)」の愛称で呼ばれている。
＊父のラモン・ドゥラノ(Ramon D.DuranoⅢ)氏はセブ州ダナオ市長(元下院議員)、叔父のタデウス・ドゥラノ(Thaddeus D.Durano)氏は同州ソゴド町長であり、兄弟、伯父・伯父、伯母・叔母、従兄弟などのほとんどが町長、市・町議会議員を務めるというセブ州の名門一族。祖父も元下院議員(セブ１区)、祖母は元ダナオ市長。
＊フィリピン陸軍士官学校(ＰＭＡ)の1979年名誉同期生であり、予備役空軍中佐の階級を持つ。

■農相　Secretary of Agriculture
ドミンゴ・パンガニバン
Domingo F. Panganiban

脱税容疑で告訴されているアーサー・ヤップ(Arthur C. Yap)氏が今年６月末に汚名を晴らすためとの理由で閣僚を辞任したことに伴い、その後任として農相に「復帰」した(正式就任は７月15日)。「復帰」というのは、エストラダ政権が崩壊する直前の2001年１月初めに、当時のエドガルド・アンガラ農相(現上院議員)が官房長官ポストへ急遽移ったために、(第１期アロヨ政権でレオナルド・モンテマヨール〔Leonard Q. Montemayor〕氏が任命されるまでの)ごく短期間農相のイスに座ったことがあるからだ。今回は待望の農業行政への復帰といえる。
※農業経済、植物防疫などの専門家として農業省のキャリアを一筋に歩み、農業次官に上り詰めた。エストラダ前大統領が政権の崩壊が進む中で、農業官僚のトップだった同(パンガニバン)氏をとりあえず農相に任命したのは必然的だったともいえる。アロヨ政権の成立後に農業省を退職し、国連食糧農業機関(ＦＡＯ)や民間団体の農業コンサルタントとして活動しながら、(2004年選挙で野党連合の副大統領候補として出馬し落選した)ローレン・レガルダ上院議員(当時)の「参謀役」にも就いた。
▼データ
【現職】農業省長官
【年齢】66歳(1939年８月９日生まれ)
【生地】(カラバルソン地方)バタンガス州タナワン
【学歴】1961：国立フィリピン大学(ロスバニョスＵＰＬＢ)卒(農学士：農業経済学・植物防疫学専攻)、70：ＵＰ(マニラ)で行政管理学修士号取得
【経歴】1961：農業省入省、植物産業局(ＢＰＩ)サンボアンガ市およびタルラク州事務所各植物防疫官、67：ＢＰＩ第３地域農場スーパーバイザー、69：ＢＰＩ第３地域長、国家食料農業評議会(ＮＦＡＣ)事務次長(－75)、84：農業振興局(ＢＡＥ)局長代行、のちＢＰＩ局長、85：ＮＦＡＣ事務局長、92：(ラモス)大統領農業問題補佐官、96：農業省次官、2001：［１月８日］(エストラダ政権末期)農業相(－［３月31日］)、［８月］ローレン・レガルダ上院議員首席補佐官(－04：［６月］)、05：［７月15日］(第２期アロヨ政権)農相
【活動】フィリピン農業技術者協会名誉会員
【歴任】1986：「ミッション・アグリベンチャー」団長(中央アフリカ・ガボン)、90：ＵＰ農学部同窓会副会長(－91)、95：国連食糧農業機関(ＦＡＯラオス)コメ生産技術専門家(－96)
【家族】マデリナ(Madelina Tapia Yambao)夫人との間に３子
【横顔】90年代には、フィリピンのプロ・バスケットボールチーム「ピュアフーズ(Purefoods)」のヘッドコーチに就いたこともあるスポーツマンで、「ファーマー(農業家)スポーツマン」との異名もある。

■農地改革相(代行)　OIC of Land Reform
ナッサー・パンガンダマン
Datu Nasser C. Pangandaman, Al Haj

農地改革省次官(ミンダナオ地域担当)だったが、７月９日にアロヨ大統領によって農地改革相代行(ＯＩＣ＝Officer-in-Charge)に任命された。ミンダナオ出身のイスラム教徒で、氏名には部族の長を表す称号であるダトゥ(Datu)、およびメッカへの巡礼を済ませたことを示すハジ(Haj)の称号を冠している。
※７月８日にアロヨ大統領の退陣を求める声明を出して「集団辞職」したセサール・プリシマ(Cesar Purisima)前財務相ら10人の閣僚級高官(通称「ハヤット10」)の中にレネ・ビリャ(Rene Villa)前農地改革相も入っており、農地改革省官僚の最高位にある同(パンガンダナン)氏が当分の間大臣代行を務めることになった。ただ、本稿執筆時点(10月下旬)でも正式な農地改革相はまだ任命されていない。

■保健相　Secretary of Health
フランシスコ・デュッケ
Francisco T. Duque III

第１期アロヨ政権では、フィリピン最大の政府系社会保障機関「フィリピン医療保険公社（ＰＨＩＣ）」（加盟者数6,400万人）の総裁・最高経営責任者（ＣＥＯ）に任命され、第２期政権発足直後にはＰＨＩＣ総裁・ＣＥＯのままで閣僚ランクに昇格した。今年６月１日、民間に転じることを希望したマヌエル・ダイリット(Manuel Dayrit)氏の後任として現職に就任。就任式では、ＰＨＩＣトップとしての経験を生かして保健行政改革の中核に国民健康保険システムの促進・拡充を置くことを強調した。アロヨ大統領もＰＨＩＣを「最も効果的な貧困撲滅プログラム」のひとつと位置づけており、同氏の手腕に大きな期待を寄せている。
※元来は病理学を専門にする医学者だが、90年代末から社会保障行政の実務に携わるようになった。短期間だが、保健省次官も歴任している。

▼データ
【現職】保健省長官
【年齢】48歳(1957年２月13日生まれ)
【生地】マニラ
【学歴】1978：サント・トマス大学(ＵＳＴ)医学部進学課程修了、82：同大学医学部卒(ＭＤ)、87：(米ワシントンＤＣ)ジョージタウン大学で理学修士号(病理学)取得
【経歴】1988：リセ・ノースウェスタン大学(ＬＮＵ)医学・病理学科準教授(－95)、89：ＬＮＵ医学部長(－95)、パンガシナン大学理事(－99)、90：パンガシナン・メディカル・センター院長(－95)、マカティ・メディカル・センター救急医学カレッジ学長(－97)、91：ＬＮＵ執行副学長、96：ドクターズ・ファーマシューティカルズ社メディカル・ディレクター、99：フィリピン医療保険公社(ＰＨＩＣ)理事、2001：［３月］保健省次官、［６月］ＰＨＩＣ総裁・最高経営責任者(ＣＥＯ)兼フィリピン健康保険公社(PhilHealth)副理事長、04：［10月］閣僚(secretary)ランクに昇格、05：［６月１日］(第２期アロヨ政権)保健相
【歴任】フィリピン社会保障協会執行委員長、薬物乱用防止財団副会長、ジョージタウン・クラブ財団(フィリピン)理事長
【家族】カロリーナ(Carolina Ablaza)夫人(皮膚科医)との間に５女

■教育相(代行)　OIC of Education
フェ・ヒダルゴ
Fe Hidalgo

女性。前教育省次官(教育プログラム・プロジェクト担当)。フロレンショ・アバド(Florencio Abad)前教育相が７月８日、「ハヤット10」の一人として辞職したことを受けて、同省の別の次官であるラモン・バカニ〔Ramon Bacani〕氏がその直後から暫定的にＯＩＣに就任していたが、９月１日になって同(ヒダルゴ)氏がバカニ氏と交替する形で新しいＯＩＣに任命された。「試用期間」を経て、正式に教育相に昇格する可能性が高い。
＊フィリピン師範大学卒業(初等教育)後に(豪シドニー)マッコーリー大学で修士号(教育学)を取得。さらに、教育心理学を研究し博士号(Ph.D)を取得。1956年に教員としてバタネス州に赴任したのを最初に、一貫して教育公務員として歩み次官にまで上り詰めた。この間に、国定教科書調整官、教育課程・教育方法国際学会(ＷＣＣＩ)地域代表、ＡＳＥＡＮ教育小委員会(ＡＳＣＯＥ)委員長などの要職を歴任してきた。

■社会福祉開発相(代行)
OIC of Social Welfare and Development
ルアルハティ・パブロ
Lualhati Pablo

女性。前社会福祉開発省次官(地域活動担当)。「ハヤット10」の一人として７月８日に辞職したコラソン・ソリマン(Corazon Soliman)氏の後任として、同９日に現職に任命された。人身売買防止活動などに熱意を持っている。

《大統領府高官》
■国家安全保障顧問
National Security Adviser
ノルベルト・ゴンザレス
Norberto B. Gonzales

今年２月にヘルモヘネス・エブダネ氏が公共事業道路相に異動したことに伴い、その後任として2004年に半年間勤めたことがある現ポスト(国家安全保障顧問)に再任された。９月には、政府のロビー活動のために同(ゴンザレス)氏が米法律事務所と調印した「不明瞭」な契約に関して、上院の聴聞会で詳細の公表を拒否。そのため、上院を侮辱したとして身柄を上院の管理下に置かれるという難局に直面している。しかも、その間に高血圧に見舞われケソン市のフィリピン心臓センターに移された(ブンニェ報道長官は10月17日、同氏は現在「病気休暇中」扱いになっていると述べた)。
※反政府組織の「モロ・イスラム解放戦線(ＭＩＬＦ)」やフィリピン共産党系の「民族民主戦線(ＮＤＦ)」と政府との間の和平交渉で独自の裏方を務めてきた。ただ、治安問題に関する直截な発言が物議をかもすこともしばしばである。

▼データ
【現職】国家安全保障顧問
【年齢】58歳(1947年４月17日生まれ)
【生地】(中部ルソン地方)バタアン州バランガ
【学歴】アテネオ・デダバオ大学医学部進学課程修了、国立フィリピン大学(ＵＰ)で修士号(化学)取得
【経歴】2001：［２月］大統領特命顧問、04：［２月］国家安全保障顧問/国家安全保障会議(ＮＳＣ)事務局長、［８月18日］大統領首席補佐官、05：［２月９日］国家安全保障顧問/ＮＳＣ事務局長(再任)
【政党】フィリピン社会民主党(ＰＤＳＰ)党首
【家族】離婚

■政府マスメディア・グループ長
Head of the Government Mass Media Group
セルヘ・レモンデ
Cerge M. Remonde

■大統領府法律顧問
Chief Presidential Legal Counsel
メルセディタス・グチャレス
Ma. Merceditas N. Gutierrez

■大統領府政治顧問
Presidential Political Adviser
ガブリエル・クラウディオ
Gabriel S. Claudio

＜お詫びと訂正＞
前号(2005年10月15日号)の本欄で、ノリ・デカストロ副大統領の説明文中に同副大統領が７月初旬に「兼任する要職を辞任した」とありますが、実際にはアロヨ大統領がこの辞任を認めなかったことから、同副大統領は現在もこれらの要職(住宅都市開発調整評議会〔ＨＵＤＣＣ〕議長、貧困対策委員会委員長代理、海外フィリピン人労働者〔ＯＦＷ〕問題大統領顧問、物価監視大統領顧問)を兼任しているというのが正確です。お詫びして訂正します。

(アジア・リンケージ　勝田 悟)